

地区別榮光會

榮光會も年々増加し總會にも増し總會に於ては父兄各位の御意向や御意見を聞く機会もなかり、得られまじんのぞろぞろ校長先生の御察察と父兄各位の御熱心な御希望により地区別榮光會が前健されました。その第一回は北鎌倉地方にて行われ、続いて横須賀、田浦、追浜方面、大津、浦賀、定水、下浦方面、逗子方面、横浜川崎方面、鶴岡下町方面、同上町方面、葉山方面等が開催されました。なお二十日には杉田、磯子方面、又近い中に鎌倉、藤沢方面等が開催される予定です。

これについて校長先生は次の様に語られました。「この会の目的は父親会にし、親子に子供に親の法を教えることと云うことです。特に感じ事事は父兄の学校に対する深い親しみと信用であります。驚いた事は

不平が一つも聞かされたことでも私は随分不平があるんです。此様な事がありました。或る人は、『榮光の生徒だか知ら悪い事やしない。』などと云われまして。違うんですよ。人向であり、眞の人向になろうとしてゐるから悪いことをしないんですよ。」

我等の高等學校！

我等榮光學園中學生の希望の的であつた高等學校の設置。願ひが十一月十日に遂に実現。一月前からは申請し各先生方の東奔西走の努力により、遂に実現。出が一周前になつたにもかかわらず、フルスピードで認可が下つた。

その日早速お喜びの校長先生に御感想と抱負をうかがふと、にこ／＼して「まあ何を云ひませうか、と前置きされてはつり／＼と次のように語られた。

「三年生に大さな希望があります。今まで先生も生徒も非常に熱心で着実に良い成績を挙げつてから評判のよい学校になつたのですが、でも高等學校を作るにはなお努力しなければなりません。本當の事はこれからです。もつともつと皆で新しい学校にしなければ

又の様に云われています。「いつもの榮光會と違つて、今は主に先生方が動く方になつて父兄がいろいろとお話しになつた事です。又非常にうちとけ、和氣に満ちたものでした。又或

所では小学校の先生の我が校の教育方針に対する意向がありました。收穫は各々の家庭の様子がよく解つた事です。」

喜びの日

去る十一月十三日、この日は二年生二十四日にとつては、喜

びの日でありました。先生方も、勿論刀一杯で学校のために盡力するに重んじられてまいりました。まあこの学校は、私の又は先生方のものではない。榮光學園中學校、高等學校と云うのは、今の三百五十九名の生徒が自ら育てたものである。だから生徒の特に第一親生の学校の将来に対する責任は非常に大きい。実は聖なる使命であります。何故ならば私どもは、この学校の方針と精神とを語つて、我が國民のために本當に自覚の責任をもちたいからです。又

家系主任村先生も「我々が今迄苦勞して認可をとつたのですから今度は君達が榮光を實質的に立派なもの、しっかりしたものにして下さい。どうしようもない高等學校が近きますよ。」と語られていた。

この日であり、且つ一生運命の出来ぬ受洗の日であつた。前日よりみりつづく雨の午前八時より、厳かな空気のうちに、洗礼式が、大聖堂に於て挙行された。聖堂の入口に二組に並んだ二十四名の額には、喜

びで飾られてゐるようにならされた。十字架を先頭に、フオス神父様、ヘルヴェク神父様が出られ、ここに於いて、洗礼式が始められた。式は進み、一人一人に塩へ永遠にくさらないし、ししが与えられて後、二十四名は使徒信經を口に、祭壇に赴いた。まず一人一人の額と頭に聖油で十字架が記れ、後一同信仰を宣言し、且つ悪徳と罪惡を捨てる事を宣言した。外では、二十四名の今までの罪惡を洗い流すかのように両が降り流れてい

た。式は進み、いよいよ、ヘルヴェク神父様、フオス神父様の二人の手によつて、二十四名に洗礼がさづけられた。この時、聖堂は、厳かな空気につつまされて、この時をなくしては味あえない一種の静けさが、我々の心にしみ入つていくようであつた。後、世の光と交らんようにと口ウソクがさづけられて、洗礼式の幕を閉じた。その後すぐ、ヘルヴェク神父様のミサ祭儀が行われ、大要次のように述べられた。「今日、二十四名が洗礼を受けられました事は、実に喜ばべき事でありませぬ。この人達は、今日天主様から、大きな恵みを受けられたのであります。それは天主様の生命にあづかつた事です。父田から生まれ、父田の生命に

あづかつて父田の子となり、天主様から生まれ、天主様の生命にあづかり、天主様の子となるのです。ですから、心から御父を愛し目つ受けを恵みを受け、感謝せねばなりません。その感謝は、神にのみならず、人とによつて可能なのです。君たちは、天主様に感謝すると同時に君達の父母にも感謝して下さい。」

受洗者に初聖体が授けられ、感謝のうちに、聖祭が終了し、待ちかねていた朝食があつた。その後一階合併室に於て、受洗者の前に、祝賀會が開催された。まずヘルヴェク神父様の祝詞、続いて信者を代表して三日茨木君、吉川先生がそれぞれ祝いの言葉を述べた。校長先生は「私は君たちの受洗の成長する事を祈り且つ学校の爲にしっかりとついて下さる事を願ひします」とあいさつされた。その後、記念撮影があり、十二時から、聖フランシスコ、ザヴェリオ未だ對談、映画と、漫遊に解散と受洗の一時を過ぎた。二時から、聖堂に於いて、聖体降福式が行われ、後二十四名は、喜びに満ちた家庭に向つた。

榮光學園

本校では、来年度よりの高等學校設置にともない、校名を変更することに決定、十一月五日、内山學事よりの認可が下り、同日榮光學園中學校(高等學校)と変更した。校長先生のお話によると、榮光中學校、榮光高等學校では、別の学校みたいだが、一つの学校であることと云うことを明示するために変更を決定したと云うのである。又夏休み前に校章の審議があつたが、このうちから三、三選んだが、まだ決つてなく、決定すれば中學校も高等學校も同じ

ものになる予定である。でも、
も願うことは、安んじなく幸
福なことを愛わすが、これによ
つて、栄光も高い理想に向う
ほがらかなもつともつと楽しい
所となるであらう。

(三三) (記)

悲しみのシュトルテ先生

「私ももしも良い人であれば、
多くは母の愛の結果です。」
とシュトルテ先生がいわれてい
たお母さんが、十月三日御歸天
されたということが、去る十一
月九日朝礼の時ヘルヴエウ先生
から発表されました。

元月中司信者へ宛てたシュト
ルテ先生の手紙にも書かれてあ
り、前から佳境であることは知
つて居られていました。愛す
るお母さんを見つてシュトルテ
先生の悲しみは例えようもない
大きなものでしょう。シュトル
テ先生は特別にお母さんを愛し
ていました。そのお母さんも特
別にシュトルテ先生と僕達を愛
していました。それは九月中旬
信者へ宛てられたシュトルテ先
生の又の手紙でも知ることが出
来るでしょう。

「……天狗ははかに眞面目
后と思うかも知れませんが天狗
の心は本当に悲しいのです。加
音主任室の机の上にかざつてあ
つた私の田の写真を見ても見
てしよう。此の私の田は重い病
疑にかかりました。先日手紙で
知つたばかりです。私の田はほ
んど完全に素晴しい田です。私
がもしも良い人であるならば、そ
の多くは母の愛の結果です。私
がイエズス会に入会したのは母の
最大の犠牲でした。私が子が天

主様の司祭になると考へて、
んぞいましてが、とうとう私は
司祭になつて一度も母に祝福を
与えることが出来なかつたのは
田にとつても大きな悲しみでし
た。そして君屋のことをいつも
喜んで居りました。まだ栄光
に居つた時、田の手紙に又のよ
うなことが書いてありました。
「我が愛するハンズ、今一度
会いたくてなりません。此の世
ではもう会えないかも知れませ
ん。お前が栄光で幸福であると
聞いて何よりも痛しく思ひます。
……天主様は去前と去前の
仕事と生徒と置かに御恩を
与え給わんことを願ひながらお
祈りして居ります。良いイエズ
ス会員になれ！」
去前を何よりも愛する田より、
田が君達のために朝晩祈つて
下さることを知つて安心しまし
た。天狗の田の亡めに祈つて下
さい。年はもう七十ですが、或
いは天主様は彼女を近いうちに
自分の御側へお呼びになるかも
知れません。君達のお母様達の
御恩を忘れなさい。……」
翌十日、シュトルテ先生のお
母さんの目に七時半からヘルヴ
エウ先生が死者の首のミサを捧
げられ、主に信者が与つてシュ
トルテ先生のお母さんの冥福を
祈りました。

僕達もシュトルテ先生のお母
様の墓の前に祈り、シュトルテ先
生を出来るだけ志願の致しまし
よう。又僕達も先生のように母
を大切にしましょう。

(36) (記)

喜びの悲しみ

去る十月二十八日(金)、ペ

トリシバ台風が、夜明けから朝に
か竹向東沖を通過して北の湘南
線不通(七時三十分全線再開)、
湘南で通つて居る約百二十名の
生徒が一掃にならない。又栄光
も海岸のそばなので、ガラス
の損害など完全に暴風に荒され
たため、この日は休。
「我が正午近くになり、だんだん
と暴風もおさまり、午後には、
まつたくの秋晴となつた。この
日は諸先生にとつて、爽にうら
ましい日であつたのではないか
ら。」 (38) (記)

E. C. S.

English Speaking Society

この新しい部が、英語の成
績が八十五以上である三年生
十八名によつて結成された。部
の目的は「普通の日常会話、
英語劇、詩、弁論その他を行つ
て英語の進歩を向上させること
にあり、校長先生、菊池先生の御指
導の下に毎週一回集るほか、学
校の種々の英語図書を買ひて読
んだり、意定に出かける等、い
ろいろの行事を計画して居る。
まず第一回の会合は十月二十七
日に開かれた。何しろ英語以外
は話してはいけなかつた。さう
いふ點に一回困難の極に達し
てしまふ。手まねや身振りなど
が横行し、加なこおびまじりか
つた。その日はフォーブス先生と校長先
生との対話を聞いて後少し注意
があつた。そして全通の目的
部員(Participants)とそれを補佐
して種々のプランを立てる企画
委員(Planners Committee)と二
名の書記(Secretary)とを
選んだ。部員には38名、企画委
員には34名、書記は10名、書記

湯川博士とノーベル賞

十一月十二日将来のノーベル
賞を目標に日夜本校にて教職を
取つておられる我等の誇りなる
林先生が最近日本を、いや世界
中を駆けまわつて日本をはじめの
ノーベル賞受賞者、湯川博士の語
について語ることがあつた。十二
時三十分、会場は理科教室、
聴講者は二十五名であつた。大
勢は次の通りである。
「エート君さんもう御承知
の事でしょうが、この前湯川博
士がノーベル賞を授けられました。
一口に云ふと湯川博士の研究
がとて素晴らしい立派な研究
の事です。」

物質は一八世紀に発表された
所によるとなんとも細かく最後
まで突き止めていくと、ごく小
さな粒から成り立つて居ります。
原子と分子であつて更に分子は原
子から成り立つて居ります。
湯川博士は理論物理学の一番
の権威者であり、物質は原子
から出来て居るといふ事が、
もとの大きさがわからなくて
はしようがない。

そこで科学者
達はどの大きなものを表わし
て居ります。原子は10⁻⁸の一億分
の一から一億と云う川さなもので
あります。これ以上の大きさ
を調べるに云う事は限りがあり
ませんから、これらの構造を調
べるのです。原子はこんなにも
小さいけれども二つの部分から出
て居ります。即ち電子と原子核
からです。



電子の廻り方は真空中の電荷(+)
一箇(+)と云うものであり、その
中の気体を真空
ポンプで除去し
て、
一箇、気圧を
減らすと、
その中で
面白い変化が起る。これによる
と電子の重さは、
ことがわかつた。その大きさは
10⁻¹⁸g. であり、原子核は電子
より重々、大きさは10⁻¹⁴g. であ
る。しかしこの原子核の中にも
まだ何か入つて居るといふこと
うので実験して見ると例へば
リウムなら第二図のように電子
が陽子に入つて居る。

(第二四) 物質的に云うと、
同種の電気は反発しあうから核
中の陽子も反発しあうわけだが
この核は大陽の様な高温高圧の
中では壊れない程丈夫ですから、
勿論この中の陽子も勝手に外へ
飛び出せないのです。ですから
こんな丈夫な核の中は何かの力
が働いて、たくてはなりません
これを中間子といひ、この力を
核力と名づけ、しかしこの核
なものがあるといふことが解つ
ても、理論的説明が世界であり
ます。これを、完全に説明した
のが、湯川博士であつたのです。
そしてこの中間子は電子の二百
倍の大きさだといふ事も知りま
した。ですから私達はこの核な
力及び研究をされ、湯川博士を尊敬
するだけではなく、他の科学者
のされ、研究もよく理解する事
が肝要であります。これが科学
者達に対する感謝として一冊良
い事でありませう。

(38) (記)